

インターバンクの声（2016年4月22日）

昨晚、市場参加者の多くが注目していたのは、欧州中央銀行(ECB)理事会とその後のドラギ総裁の会見だったと思われるが、今週のユーロ相場が余りにも退屈だったのでポジションは全く持っていなかった。その注目のECB理事会は、終了後に追加緩和が当面ないとの見通しになったため100ポイント上昇したのも束の間、会見でドラギ総裁があらゆる緩和手段を「必要な限り」続けると表明して100ポイント超も下落してしまった。もしポジションを持っていたら往復ビンタを食らっていた可能性が大だった。その部分ではやられもなくラッキーだったが、110円超えに淡い期待を抱いて持っていた僅かながらのドル円の買い持ちポジションが、結局109円80銭台で頭打ちになってしまったことで損切りせざるを得なかった。何とか金曜日に週の帳尻を合わせたいが、無理をせずに来週の米連邦公開市場委員会(FOMC)と日銀の金融政策決定会合に備えたい。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複製もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。